

整理番号	34003
評価対象年度	令和4年度
編成区分	当初

事務事業評価(事前)シート

提出日	令和3年11月9日
事業担当課	都市計画課

《基本情報》

事務事業名	グランドデザイン策定費		<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡大
基本施策	E4 暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	各地区の市街地が	コンパクトにまとまり、安全で暮らしやすくなっている。	
個別施策	E4-1 安全で暮らしやすい場所に、居住及び都市機能を誘導・維持します		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	市民が	居住及び都市機能が集約された各地区の市街地で安全・快適に暮らしている。	

《事業の目的及び現在の取組み概要等》

現状・問題点	新市街(浦上・幸町～長崎駅周辺～元船・松ヶ枝周辺)では、長崎スタジアムシティプロジェクトや陸・海の玄関口の整備など、現在進行中の各種プロジェクト等により賑わいの増加が見込まれるが、一方で、まちなか周辺(新大工～浜町～南山手町付近)では臨海部への大型商業施設の立地や県庁移転等により人の流れが変化し、衰退が懸念される。
目標(誰(何)をどのような状態にしたいのか)	新市街とまちなか周辺の双方を活かすまちづくりの実現に向けて、新たなまちづくり方針(グランドデザイン)を策定し、国や県、市をはじめ市民、経済界が共有することで、取り組みを進めていく。
課題(どういことをする必要があるので)	現在進行中の各種プロジェクトを完成させるだけでなく、これらを有機的に連携させる事業、施策を提案し、新市街とまちなか周辺それぞれの拠点性と回遊性を継続的に強化する方針でグランドデザインを策定する。
上記の問題点に対して現在行っている事業の有無	有・ <b>無</b> ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等)
当該新規・拡大事業を行うにあたり、縮小・統合・廃止する事業	有・ <b>無</b> ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等) 新規・拡大事業を行うためには、今までやってきた取組みを検証し、成果や効果が低い事務事業の終了も含めた「選択と集中」に努めることが不可欠です。

《事業の概要》

<p>事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業期間、総事業費、事業費内訳等記載)</p>	<p>新市街とまちなか周辺の双方を活かすまちづくりの実現に向けて、新たなまちづくり方針(グランドデザイン)を策定するもの。</p> <p>【対象区域】基本的には都市再生緊急整備地域及び立地適正化計画における都市機能誘導区域をベースにして、今後のまちづくりの核となる事業がすでに実施、または実施が決定している事業が複数存在し、さらに、地形、宅地の連担状況、公共交通サービスの状況から一定のまとまりのある区域を対象とする。</p> <p>東:新大工～浜町～南山手町付近、西:浦上川右岸(梁川橋～旭町付近)、南:松が枝埠頭付近、北:県営野球場付近</p> <p>【事業期間】令和3年度～令和4年度(令和3年度:素案作成、令和4年度:成案作成)</p> <p>【総事業費】4,934千円</p> <p>【事業費内訳】委託料(パース作成、検討委員会運営支援) 4,246,000円 委員報酬、会場借上料等 687,900円</p>					
<p>業務量の増減</p>	<p>0時間 (R3年度からゼロ予算事業として進めているため、業務量の増減は発生しない見込み)</p>					
<p>市民等の参画と協働のまちづくり (取組みに☑をし、その内容を記載)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 情報共有    <input checked="" type="checkbox"/> 参画    <input checked="" type="checkbox"/> 協働</p> <p>・グランドデザイン策定に向けた手続きにおける市民、経済界からの意見聴取等への参画 ・長崎市の都市づくりの考え方を市民や民間企業と共有し、民間による都市計画提案など協働のまちづくりにつなげる</p>					
<p>事業期間</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 単年度    <input type="checkbox"/> 単年度繰り返し    <input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度～ 年度 )</p>					
<p>予算額</p>	<p>金額(千円)</p>	<p>国</p>	<p>県</p>	<p>地方債</p>	<p>その他</p>	<p>一般財源</p>
	<p>当年度</p>	<p>4,934</p>				<p>4,934</p>
	<p>総額</p>					
	<p>財源名称</p>	<p>一般財源</p>				
<p>成果(活動)指標</p>	<p>指標(単位)</p>	<p>居住誘導区域内の人口密度</p>				
	<p>年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>	<p>令和6年度</p>	<p>令和7年度</p>	<p>令和8年度</p>
	<p>目標値</p>	<p>66.3</p>				
	<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>立地適正化計画の集約の視点から、市街地のコンパクト化を定量的に評価するため、居住誘導区域の人口密度を成果指標とする。</p>				

## 評価結果

### (1) 今後の事業の方向性と理由

<input checked="" type="checkbox"/> 採択	<input checked="" type="checkbox"/> 所管案のとおり <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 事業規模拡大 <input type="checkbox"/> 事業規模縮小 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分
<input type="checkbox"/> 一部不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分

### (2) 評価会議における指摘事項

新市街(浦上・幸町～長崎駅周辺～元船・松ヶ枝周辺)においてはスタジアムシティプロジェクトを始めとした各種プロジェクトによる賑わいの増加が見込まれる一方で、まちなか(新大工～浜町～南山手町)周辺は臨海部への大型商業施設への立地や県庁移転等により、人の流れの変化による衰退が懸念されている。

現在進行中の各種プロジェクトの完成だけでなく、新市街とまちなか周辺の双方を活かすまちづくりを実現するため、新たなまちづくり方針(グランドデザイン)を策定するものである。

新たなまちづくり方針を国や県、市をはじめ、市民や経済界と共有することで、それぞれの区域の拠点性と回遊性の継続的な強化につながっていくことから、事業の実施は適当である。